



国際会長 (IP) Jennifer Jones (オーストラリア)

“Building today for a better tomorrow”

「よりよい明日のために今日を築く」

アジア太平洋地域会長 (AP) 田中 博之 (東京多摩みなみ)

“Action!” 「アクション」

東日本区理事 (RD) 山田 敏明 (十勝)

「勇気ある変革、愛ある行動！」

“Innovation with Courage, Action with Heart”

湘南・沖縄部部长 (DG) 森田 幸二郎 (沖縄)

「ワイズを社会に広める基盤の再構築をする」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「YMCA、地域、ワイズメンと共に！」

“With YMCA, With Community, With Y's Men!”

監事 松島 美一

ブリテン 伊藤 誠彦

担当主事 青木 一弘

会長 古田 和彦

副会長 金子 功

書記 古賀 健一郎

会計 大高 治

直前会長 金子 功

<今月の聖句>

伊藤 比朗美

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」

(テサロニケの信徒への手紙5章16~18節)

今月のひとこと

『今月の一言』

田口 努



皆様、あけましておめでとうございます。2020年がスタートし、1964年から56年ぶりとなる東京オリンピックが、あと8カ月となりました。前回のオリンピックといえば、このためにテレビを購入し、重量挙げの三宅選手、東洋の魔女と言われたバレーボール、

体操の遠藤と小野の大活躍、マラソンのアベベの金メダルと円谷の銅メダルなど、毎日テレビにかじりついた小学校2年の私の記憶がよみがえります。

一年後ぐらいだったかと思いますが市川崑総監督の公式記録映画を、全校児童で街一番の大ホールで他の小学生とともに見たことで、断片的な記憶が俯瞰した記憶となっているような気がします。開会式の整然とした入場と式典、聖火リレーにより聖火台への点火で、期待は最高潮に達し、各競技

が芸術的な演出で一気に紹介され、最後の閉会式は、一転して、世界の青年たちが肩を組みながら踊るように入場してきました。競技で争ったライバルが試合後は、国を超えて一人の人間としてお互いをたたえ合い、喜びを分かち合っている姿に、「まさしく平和の祭典であります」というアナウンサーの感動の声が残っています。

開会式の入場では、自分が生まれて初めて、あれだけの国の人びとや国旗を見ることで、世界は広いと思い、閉会式では、その世界中の若者が一緒になって笑顔でいることの素晴らしさと平和を実感した記憶となっています。NHKの実況アナウンサーによると事前の閉会式は、開会式と同様に整然とした台本であったものが、入場が始まると、まったく違い、世界の若者が混じり合い、自由に入ってきて、予定していた原稿通りでなく全くアドリブで、目の前で起きていることを、ただ興奮して語り続けてしまい、とんでもない失敗の実況だったと思い放送局に帰ると、「良かったよ、おもしろかった」と大評判だったとのことでした。

この閉会式は、東京方式として、その後のオリンピックや世界大会等で行われるようになったとのことでした。式典の責任者は「式典の神様」と異名を取る方で、サプライズで計画していたとのことでした。戦前の幻の東京オリンピックから戦争中もスポーツを通じて世界の若者の交流を目指している中で、学徒出陣で自分の教え子10数名も命を落とされた方でした。その方の目には、開会式の整然と国旗とともに国別に行進する姿は、まるで学徒出陣の式典と同じだとショックを受けたとのことでした。国を超えて若者たちが真に平和を表す姿になるよう、それまでのオリンピックの閉会式では、競技が終わると帰国してしまっていた選手たちを、なんとか閉会式に残ってもらうために、選手村の宿泊費を全額負担し、選手が喜ぶイベントをしかけたそうです。競技後の選手たち

<2019年12月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メ 7名 メネット 1名 コメット 0名 ビジター 2名 ゲスト 4名 合計 14名	67 % (メーキャップ 1名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<1月の行事予定>

IBC/DBC

日	曜	時間	行事内容	場所
18	土	18:00	Y-Y's合同新年会 兼 第一例会	北京飯店
23	木	15:00	第二例会	中央Y

の交流の場を創ってきたことが閉会式の爆発的な若者たちの喜びを分かち合う平和のメッセージとなり、世界に発信されたものとなったとのことでした。世界大戦から19年後のオリンピックでしたが、世界の人びと、そして子どもだった私たちに平和のイメージを与えたシーンだったと思います。

さて、今回のオリンピックは、世界の人びと、子どもたちの心にどんな印象を残すのでしょうか。平和の祭典となるようお願いしたいと思います。

「12月例会・忘年会報告」

大高 治

日時：12月12日(木) 18:00～20:30

場所：横浜中華街 廣東飯店

出席者：青木、伊藤、大高、金子、古賀、古田
ゲスト：井藤、長田、生井、服部 (以上、横浜YMCA)
ビジター：加藤 (横浜とつか)、鈴木 (横浜つづき)

金子ワイズの司会で月例会を開催。古田会長は今回も横浜中央YMCAの幹部4名に参加頂けたことに謝意が述べられた。次いでワイズソング、ワイズの信条、今月の聖句は押川メネットに代って金子ワイズが説明された。

ビジネスでは合同新年会、湘南・沖縄部大会、Change! 2022シンポジウムへの参加要請があり、DBC大阪長野クラブからのクリスマス・ギフトが配られ、大阪長野クラブとIBCのスリランカ(ウェラワット)、台湾(基隆)、シンガポール(ベータ・チャプター)、タイ(バンコク)各クラブへのクリスマスカードに全員でサインしました。

第2部の忘年会は、金子ワイズの司会の下、古賀ワイズが食前感謝を述べられ、参加者14名は2つのテーブルで廣東料理と老酒を堪能。宴会は終止和やかで話が弾みました。

盛り上がった頃、新しい料理の前に皆で乾杯する親日国台湾での宴会でのお酒の楽しみ方を試みました。

次いで司会者に促され、自己紹介、近況報告、来る年への抱負などが披露され、各位の豊富な経験や今後の期待や希望が述べられました。全部を紹介したいところですが、一部のみ報告させていただきます。

・12月4日アフガニスタンの貧困対策に取り組み、志半ばで殺害された中村哲医師はNGOペシャワール会に属し、YMCAは1983年の結成時から支援して来た。

・今、老人ホームで話し相手を務めているワイズは、横浜クラブの90周年記念の日は自分の90歳の誕生日に当たるといふ。

・ワイズメンズクラブの協力に感謝。運営委員会にも参加頂いている。共に手を携えて歩みたいが、援助を受ける側から授ける側にも回りたい。

・遅々としている終活Ending Note作成の完成を目指したい。横浜クラブは元気が無くなった。

・余裕がある方にはJOC S(日本キリスト教海外医療協会)への寄付をお願いしたい。

・日本で働くため、また日本語学校に来るベトナム人は中国に次いで多いが、契約の不備等で期待外れと帰国してしまう人がいる。YMCAが何等かの支援が出来れば良いと思う。

・YMCAの働きは偉大です。それを無償で支援するワイズメンズクラブも偉い。

・会長2年目となった。横浜YMCA支援は如何にあるべきかと主な部門の実態を聞かせて頂いた。更に中央YMCA建物の外での活動についても話しを聞かせて頂きたい。



例会・忘年会への出席の皆様

「第87回 YMCA-Y's協議会報告」

古田 和彦

2019年12月3日(火) 19:00から掲記の会が横浜中央YMCA811教室で開催された。

今回の担当は厚木ワイズ。定刻に奥蘭担当主事の司会で開会礼拝。聖書は今年度のYMCAの聖句「仕えられるためではなく、仕えるために」(マタイによる福音書20章28節)が朗読された。

次いで、日下部厚木ワイズ会長の司会で協議・報告に入る。田口努総主事の挨拶は厚木へ出かけていて時間に少し遅れて後ほどとなる。湘南・沖縄部長に代わり、古田次期部長が挨拶した。本日のメインの協議事項は「ユースボランティア・リーダーズフォーラム(YVLF)報告と次年度に向けて」であった。9月6日(金)～8日(日)開催の第32回YVLF報告は3名の参加リーダーによってなされた。フォーラムの概要は、ブリテン10月号に報告の通りであるが、各リーダーからは、東日本各地のYMCAの広がり、その中で同じように活動しているほかのYMCAリーダーとの連帯を感じたことや、基調講演で受けたリーダーへの期待を受け止めること、また、ワイズメンズクラブの支援によりYVLFが行わ

れていることへの感謝が述べられた。その後、YMCAスタッフから次年度となる2020年9月11日(金)～13日(日)横浜YMCAが担当となり、三浦YMCAグローバルエコヴィレッジで第33回YVLFが開かれることと、その運営にワイズの協力要請があり、ワイズ側も協力を約した。

報告は、YMCAからは、12月19日の横浜YMCAクリスマスの案内、チャリティーラン報告、台風19号・15号被災地支援報告と支援募金依頼、会員増強キャンペーン協力依頼が行われた。ワイズ側からは、11月30日(土)開催の第2回部評議会報告、その中でも、1月18日(土)のYMCA-Ys合同新年会案内、2月22日(土)沖縄・那覇で開催の湘南・沖縄部部大会案内があり、各クラブへの参加要請があった。また、各ワイズメンズクラブからは、クリスマス諸行事の案内があった。定刻20:30閉会した。次回は2020年3月3日(火)金沢八景クラブ担当で開催予定。

当クラブからの参加は、青木、田口、古田の3名であった。

「横浜YMCAクリスマス会報告」

金子 功

12月19日(木)恒例の横浜YMCAのクリスマス祝会が湘南とつかYMCAの大ホールにて行われ、常議員を初め事業委員、運営委員等のレイパーソン、又ワイズメン、入職内定者を含む職員等総勢110名以上で今年度のクリスマスを祝った。

第1部は厳かなキャンドル礼拝。4人の入職内定者によるキャンドルの点火に始まった。讃美歌「もろびとこぞりて」を歌い、「キリストの誕生が力になる今の時代」と題するメッセージを日本キリスト教会横浜海岸教会上山修平牧師よりいただいた。国際・地域協力募金への献金を捧げ「きよしこのよる」を歌ってイエスキリストの生誕を賛美した。

第2部は、祝賀の懇親会である。10人程度がテーブルを囲んで予め用意された飲み物と食べ物を楽しんだ。各テーブルには数名づつ入職内定者が洒置きされ、若さに華やいた雰囲気にも包まれた。懇親会の合間には、台風15号・19号の被災地、福島県と長野県で横浜YMCAが行った支援活動の報告があった。湘南・沖縄部からもほぼ20名が参加し日頃接触の少な



クリスマス祝会に出席のワイズの皆様
写真提供 辻ワイズ(横浜つづき)

い職員や、入職内定者との交流を楽しんだ。横浜クラブからは金子、古賀、齋藤、田口、古田の5名が参加した。

「2019～2020年度第2回部評議会報告」

金子 功

日時：2019年11月30日(土)15:00～17:45

場所：横浜中央YMCA 811教室

今年度第2回目の湘南・沖縄部評議会は、伊藤康一部書記の森田部長欠席理由の説明で始まった。森田メネットの高齢出産に備えるために担当医から出張を控えるようアドバイスされたとのことである。伊藤書記の司会によりワイズソング・ワイズの信条を唱和した後、聖書朗読、祈祷が青木一弘部担当主事によって捧げられた。

森田部長に替って、次期部長の古田和彦ワイズが開会点鐘をし、部則の規定に従って議長を務める旨の挨拶があった。伊藤書記より委任状数を考慮しないでも評議会成立の要件が満たされていると報告されたが、委任先に議長を指名した6名については部則の規定に従い無効であることが辻剛ワイズ(つづき)から指摘された。

協議は古田次期部長を議長として以下の通り進められた。

- 1) 「Change! 2022」プロジェクトに対応する会員増強計画についてエクステンション委員会委員長(辻剛ワイズ)が提案した湘南・沖縄部の増強計画案(2022年12月末までの会員達成目標150名)は承認された。新クラブ設立時の6,000円の入会金については、部が設立スポンサーの場合には部の財政状況を勘案して部が負担することが確認された。
- 2) 地域奉仕・Yサの支援金支給について岡田勝美主査(つづき)よりその配分について提案がなされ承認された。予算枠内で均等配分したため、申請額の85%の支給となった。
- 3) 森田部長提案の湘南・沖縄部と横浜YMCAとの合同新年会(1月18日(土)、於横浜中華街北京飯店)が提案され承認された。但し、開催時間については横浜YMCA職員の都合を勘案し後日決定することとした。参加者については、伊藤部書記からの案内に従い各クラブ毎に1月10日までに回答することとした。
- 4) 森田部長提案の第23回湘南・沖縄部大会のプログラム概要(2月22日(土)17:00～20:00、於沖縄サンプラザホテル)が提案され承認された。詳細は後日部書記より各クラブ会長に案内されることになった。
- 5) 森田部長より提議された次次期部長の承認と次期部長の変更については、去る10月5日に開催された次次期部長選考委員会で決定された古田次期部長を次次期にずらし、本人が継続して次期も部長を務めることの承認を求めるものであった。本件以下の理由により議案から取り下げることになった。

①現在の部則に依れば部長の任期は1年であり、継続は許されない。

②10月5日の次次期部長選考委員会の後、部評議会での承認が必要であるにも拘わらず、次期部長を森田部長が継続することを東日本区事務所に連絡、混乱をもたらした。(次期部長研修会には湘南・沖縄部より古田次期部長も、未承認の森田次期部長も不参加であった。)

当議論の中で、部役員の任期が、主査については全く守られていないことが指摘され、この評議会でも部則第5条1項に規定する任期については「但し、再任を妨げない。」を追加訂正することが提案され承認された。

6) 部長以外の次期部役員の選出についても上記の関連により議案から取り下げられた。

議案5.と6.の協議中、現在の部則の再検討が必要であるとの見解から、現在も存続している鈴木茂ワイズ(つづき)を委員長とする部則検討委員会の招集が求められた。

最後に、鈴木茂監事より次次期部長選考に関し部役員会の協議事項が部評議会の承認を得る前に区事務所に報告されたことについては大いに反省を要するとの講評があった。

時間的な制約から一部報告事項、YMCAの歌を割愛して17:45に閉会した。

横浜クラブからは大高、金子、古賀、古田が出席した。

「敬虔な仏教徒の住む国 ミャンマーを訪れて」

青木一弘



今回、横浜YMCAが主催する「第23回ミャンマーボランティアの旅」に参加する機会に恵まれた。2010年にアウンサンスーチーの軟禁が解除された頃から、日本のテレビでもミャンマーのことがよく取り上げられるようになった。日本から、ビジネスでミャンマーを訪れる人は多くなったようだが、ミャンマーへ実際に行ったことがある人は、まだあまり多くはないのが現状である。場所によっては、水牛が田んぼを耕していたりと、今でものどかさを感じる国でもある。

今回の、ミャンマー訪問は、現地の人々と友好を深めること、介護予防教育活動の実施とその人材育成支援が注目の目的であった。

ミャンマーにおいても、65歳以上の人口は2015年から2035年の間に300万人から660万人と倍以上に増加することが予測され、民族の多様性に加え全人口の70%が地方に居住していることから、ミャンマー全域における社会保健医療サービスの提供状況は複雑なものとなっている。

高齢者を家族でサポートできるかを含め、大きな課題に直面している。このような背景から、高齢者保健の政策などの見直しが不可欠である。

さらに、ミャンマーでは、他人に弱みを見せることを恥ずかしいと感じる文化があるため、外部の人間が介護を行うことには、日本で考える以上に抵抗を受けることもあり、受け入れてもらうためにはコミュニケーションをとることが重要であることを知った。



ミャンマーYMCA同盟での活動報告

本人や家族の納得を得るためには、「必要だから行く」という姿勢ではなく、納得できる小さなサービスから、段階的に進めていく必要があることを学んだ。

今回の訪問から見えた現地のニーズに関しても、そもそも介護という概念が無く、「お世話」をするというイメージであることや、「助かる」という反応しか得られなかったようにも感じられた。しかし、歩行訓練介助など身体機能の回復に関するサポートは、家族では施すことは難しいため評判が良く、この分野においては、訪問サービスの訓練を受けた現

地の看護師などに対するニーズがある。このプログラムには、次年度も引率スタッフとして関わる予定なので、さらに充実した活動ができるよう継続して準備していきたい。

また、期間中に様々な場所を訪問し、その全てで新しいことや日本とは異なることもたくさん学んだ。介護医療に関することも勿論であるが、文化的な面でもそうであった。自由時間には寺院やマーケットなどいろいろな場所を巡ったが、どこに行っても募金箱が置かれていた。ミャンマーの人々にとって募金することは普通のことであり、病院や老人療養施設の他に、盲学校や寺院など多くの施設、建物が募金や寄付金によって成り立っていると知らされた。多くのミャンマー人が、寄付や人助けを行う理由は、ミャンマーに根付いている仏教の教えがあるからだと考えられている。大半のミャンマー人は敬虔な上座部仏教徒のため、より良い来世を迎えるために、日ごろの行いを善くし徳を積むことに熱心である。そのため、誰かを助けたり寄付をしたりすることに抵抗がないようだ。個々の支援が社会課題の解決に結びつくことを理解し、自分の存在が誰かに必要とされているということに気づく素晴らしい行いであると感じた。今回の出張では、多くの方々にたいへんお世話になった。このような貴重な経験をさせていただき感謝に堪えない。

第二例会報告

伊藤 誠彦

日時：12月12日（木）15:00～17:15

場所：横浜中央YMCA 811号室

出席者：伊藤、大高、金子、古賀、古田

例年12月は第二例会を開催しないが、クラブ90周年行事の基本構想を討議するため、急遽開催することを決めた。

金子ワイズ原案に沿って、各自が案を持ち寄り討議した。大きな論点になったのは記念礼拝・記念会と懇親会の持ち方に関する基本姿勢についてである。即ち、90周年記念と銘打ち開催するからには「それなりに参加者にも楽しんでいただける内容にすべきである」と言う案と、80周年記念と同様に、「余計な経費を掛けずに質素で厳かな会にすべきである」と言う案である。最終的には会長決済で、前者に決定された。

1月第二例会において、礼拝・記念会、懇親会、90周年記念誌等の担当責任者を決定し、具体的な作業に入ることになる。次年度(2020-21年度)は古田部長年度でもあり、クラブとしても責任を果たせる体制を整える必要がある。そのためには会員一人ひとりがそれなりの役割を担う必要がある。

『新年への一言特集』

「空の上の年越し～飛翔へ」

青木 一弘



年末・年始は、ミャンマー出張となっていたので、12月31日までヤンゴンに滞在した。なので、大晦日は、ヤンゴン国際空港を22時過ぎに発つ深夜便に乗り、元旦の午前7時に成田に到着した。ミャンマーと日本では、2.5時間の時差がある。時差がある国の中で飛行中に年を越える場合、新年を迎

★ 強い義務感をもとう

義務はすべての権利に伴う ★

える瞬間はいつなのか?という疑問が心の中にあった。また、空の上で年を越したのは、生まれて初めてのことである。2020年は、空を飛んでいる間に迎えたことで、1年の活動が大きな飛翔につながるに違いないと信じたい。(結局、成田に降りる1時間ほど前に機内が薄明るくなり、「あけましておめでとうございます」というアナウンスがあった。)

「終活第二章」

伊藤 誠彦



昨年の新年の抱負は、終活の一環としてエンディングノートを作成することを目標に掲げた。エンディングノートは、老後の人生設計を、①家族に対して『記録して伝える』こと、②自分に対して『心の整理をする』こと、の二つの意味がある。

ただ伝えるだけ、ただ整理するだけでは意味が無い。家族に納得してもらい、気持ちを整理して充実した老後を実現するためには、これからの精進にかかっている。

幸いワイズには、上手に年をとり、人生の達人と呼ぶにふさわしい方が沢山いらっしゃいます。お手本にさせていただきたいと考えています。

「平和への想い」

大江 浩



昨年12月、ペシャワール会の中村哲医師が銃撃により天に召されました。哲先生は九大Y出身でJ O C Sパキスタン派遣ワーカーでした。私とペシャワール会との出会いは2000年のアフガニスタン

大干ばつの支援に遡ります。その後2001年の911の後、2002年のアフガン難民支援調査、2004年の横浜Y120周年講演以降、2014年頃までその繋がりが続きました。120周年講演での哲先生の言葉「大宰府の山奥から来た田舎者の私はアフガンの山奥の村で活動している。村と村を繋いでいるが大それたことはしていない。けれど、それは私が思う平和に至る道である」が心に刻まれています。愚直なキリスト者としてイスラムの国の草の根の人々と共に生きることを貫かれた哲先生の働きに、今再び米国とイランとの一触即発の危機が高まる中、「平和への想い」を強くしています。

「一知半解に心して」

大高 治



雑学の大家と評判の人が私の回りにもおりました。何を聞いても分らないことがない。どこでそんな知識を仕入れたのかと驚嘆でしたが、時々何か足りないものを感じました。今ではインターネットが何でも答えてくれ、こう

いう人の出番が少なくなっていると思います。

反面、生き字引と言われる人は特定の分野での知識が広くて深い。多くの人から頼りにされているように思います。一芸を極めなお研鑽を積んでいる職人さんと共通するものを感じ

じます。

私も雑学を蓄えた方だと思います。雑学だけでは一知半解に過ぎないと感じています。社会は人の長所とスペシャリティーを組合せて動いています。より深い知識と理解力を高める為、80の手習い(インプット)に努めたいと思います。

「新春の抱負」

押川 幸男



明けましておめでとうございます。群馬県沼田市での2度目の冬を過ごしています。昨年の夏は、沼田市国際交流員ドイツ人のティーネさんたちと共にドイツ視察旅行の機会が与えられました。今年も国際交流協会の方々と沼田市の姉妹都市ドイツ・フュッセン市を訪問する予定です。特に今回はフュッセン市の教会と幼稚園・保育園を訪問したいと考えています。フュッセン市は、受難劇で有名なオーバーアマガウの近くにあり、今年10年に1回の受難劇上演の年でもあります。機会があれば、観劇したいですね。

毎月の例会になかなか参加できませんが、今年も皆様とお会いできますこと楽しみにしています。

「新年の願い」

金子 功



昨年の定期健康診断で、身長がこの1年で更に1センチほど縮んだことを告げられた。ここ数年、変な咳に悩まされていたので精密検査をしたところ、喘息だとの診断も受けた。これで現在与えられている病名は、骨髄異形成症候群、間質性肺炎と合わせ三つになった。年をとっていることを実感するこの数年である。

最早、おそれた抱負などはないが、2月の沖縄での湘南・沖縄部の部大会に参加し、10月の東京オリンピック・パラリンピックを楽しみ、12月に迎える横浜クラブの創立90周年記念式を無事済ませることを願うとともに、数年前に我が家の庭に植えたレモンの木が今年には実をつけることを切に願っている。

『W杯ラグビーの情景から・・・』

古賀 健一郎



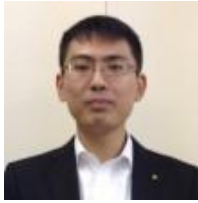
史上初のW杯8強進出を果たした日本の健闘には国中が大いに沸いた。ラグビーは、相手ゴールにボールを持ち込み、地面につけるトライを求めて、体をぶつけ合いボールを奪い合って攻防を繰り返す自己犠牲のスポーツとも言われる。

特に、『FWの稲垣啓太選手』のプレーには大変感動を覚えた。『BK(バックス)』は、ボールを持って走る俊足のスター選手が多いが、『FW(フォワード)』は体の大きな選手がスクラムを組むポジション。彼は日本代表ではずっとトライ経験がなく、身を殺してチームの活路を開く献身的な選手である。捨て身の3連続の『オフロードパス』の最後に彼にボールが回ってきて、この大舞台で初めて楕円球を両手で確実

に地面につけた！直後、これまでトライした仲間を讃える側だった男が、大歓声の歓喜の輪の中心にいた。私にとっても、この情景は今後の生き方に良き導きとなった。

「ユース最終年」

齋藤 宙也



2020年が始まった。35歳になり、ついにユースの最終年ということになる。

昨年は、一時期暇になったものの、お盆明けから年末までは途方もなく忙しく、土日も片方休めるかどうかという感じとなっていた。結局、事件単価の関係上、

苦勞の割に金銭的には困窮し、献金も縮減せざるを得なかった。

売上については、事件の巡り合わせによるものであってなかなかコントロールできない。あとは、余暇を作れるように工夫していくしかない。ロータリークラブとの兼ね合いもあるので、やはりこちらの参加も限度がある。一方で、熊本スピリットクラブの方も、12月の90周年記念行事に参加したということであった。このDBC締結の橋渡しは、できる限りやりたいと思う。

『森のフクロウ』

田口 努



2020年3月まで、横浜YMCA総主事の役割を全うし、次期横浜YMCA総主事にバトンタッチをスムーズに行う。2020年4月より日本YMCA同盟次期総主事として、現同盟総主事よりバトンを受け取り、日本のYMCA運動をゆるぎなく推進する。そのために気力、体力の充実と衰えが著しい知力を維持、高めるよう努める。その基盤となる信仰生活を大切に、地域社会、世界の隣人とともに歩めるように励む。まさに Spirit、Mind、Bodyに Worldを加えたYMCAの正章のような抱負となったが、年末に初孫が生まれたので、孫から慕われる良きジジになれるよう、ユーモアがあり、思慮深くあたたかく見守るポジティブな翼をもつ森のフクロウのようになりたい。

「与えられている健康に感謝、そして、奢らず」

古田 和彦



昨年、学生時代から親しくしていた友を天に送った。教会でも同年前後の方々が少なくないが、それらの方々と比しても、私は肉体的には健康を与えられているように思われ、感謝している。朝、妻と公園でのラジオ体操も日課にしている。このように書くと、何も問題が無いようにも見えるが、思考能力や判断力、継続する気力は甚だしく減退している。今年10月で車検となるが、その時を期して車を手放す予定(家族の勧め)でもある。強いられた恩寵ともいふべき、ワイズの要職を継続する年となる。能力の欠けを認識しつつ、焦らず早めに計画することを目指したい。

「今年こそは」

松島 美一



"Never put off till tomorrow what you can do today" 中学校で英語の先生に教わった格言。「汝が今日出来ることを明日まで延ばすな」文字通り拳々服膺すべき良い格言です。ほとんど毎年の新年の抱負として掲げてきました。しかし、年末には今年も守れなかったと反省の資となるのが常でした。そして次の新年の抱負になるのも常でした。恥ずかしながら、2020年新年の抱負としてまたまた掲げます。「今年こそはこの格言を守ります。原稿締切日に慌てて書き始めるようなことはしません。どうせ例年通りになるのさと笑った鬼達を見返してやりたい。」



担当主事 青木 一弘

●横浜YMCA会員大会のご案内

今年度の横浜YMCA会員大会のご案内です。会員大会は、どなたでも参加でき、YMCAのことが分かるフェスティバルでもあり、平和を願い、みんなで交流し共有する機会です。

子どもから大人、会員の方はもちろん知人などどなたでも参加できるイベントです。入場無料、予約不要です。是非、ご家族・ご友人などをお誘いの上ご参加ください。

日時：2020年2月11日(火・休日) 10:00~14:00

会場：湘南とつかYMCA 1階ホール及び2階

テーマ：平和をつくる人は幸いである

1月例会プログラム

日時：1月18日(木) 18:00~20:00

場所：北京飯店(横浜中華街)

出席者：横浜YMCA常議員、事業委員、職員
湘南・沖縄部ワイズメン・メネット

Happy Birthday 大江 浩、松島 紀子

例会報告 松島ワイズ

2月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
1	土	13:00	Change!2022 シンポジウム	東京Y
11	火	10:00	横浜YMCA会員大会 兼 第一例会	とつかY
22	土	17:00	湘南・沖縄部 部大会	沖縄
27	木	15:00	横浜クラブ第二例会	横浜Y

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA青木一弘にご連絡下さい。

メール aoki_kazuhiro@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080